

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大和中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|--|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

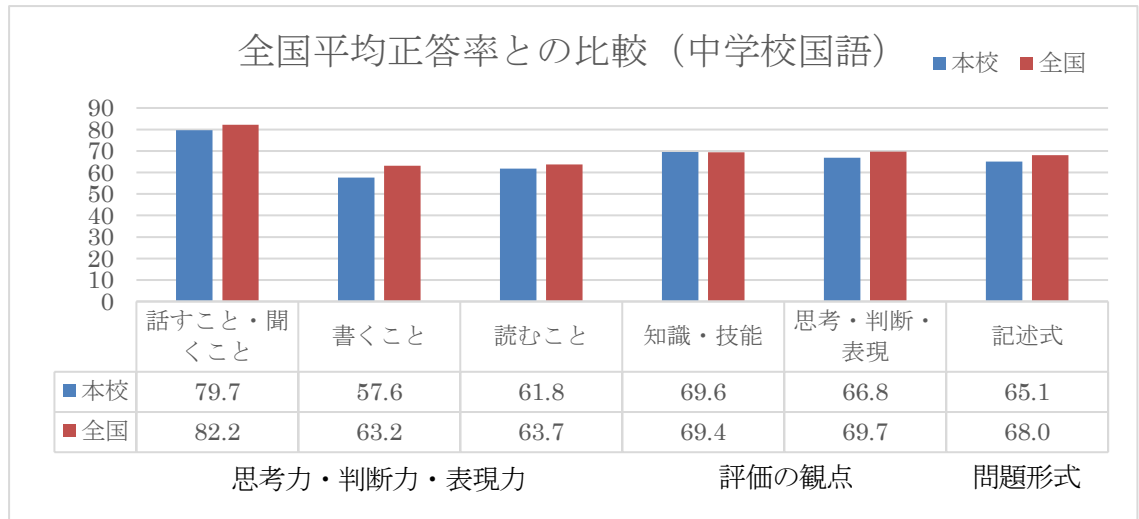
生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は、中学3年生が対象であり、教科は国語と数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「思考力、判断力、表現力等」を見る問題(左3つ)のうち、「読むこと」はほぼ全国平均と同等の結果でしたが、「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率を2.5ポイント、「書くこと」は5.6ポイント下回りました。「評価の観点」の「知識・技能」は、全国平均正答率とほぼ同等程度でした。また、無解答率をみると、全問題で全国平均並みでしたが、記述式問題でやや高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、評価の観点の「知識・技能」は、ほぼ全国平均正答率と同程度でしたが、「思考・判断・表現」は2.9ポイント下回りました。「知識・技能」は国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率65.1%は、全国平均正答率68.0%を下回っています。生徒の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

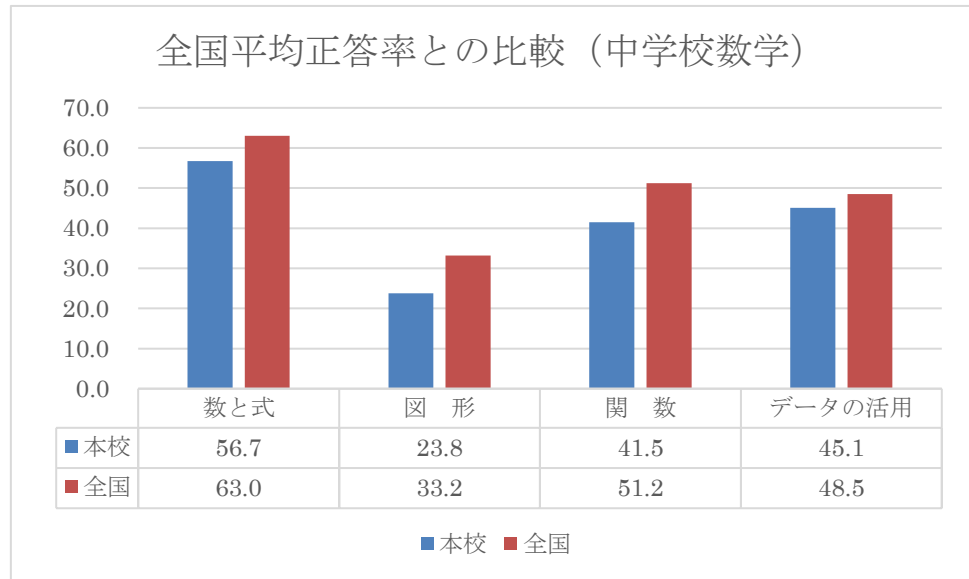
【学校では】

- お様が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、生徒同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き等の学習を続けるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- 我が国の言語文化に関する事項についての学習にも力を入れます。

【ご家庭では】

- その日に習ったことを確認し、積み残しを作らないように復習をさせてください。
- 宿題をきちんとやらせてください。わからないところは、先生や友だちに聞くようにさせてください。
- 新聞やいろいろなジャンルの本をたくさん読ませてください。初めて知る言葉や分からない言葉に遭遇したら、おうちの人に聞いたり、辞書(インターネット可)で調べさせたりしてください。
- いろいろな話題でたくさん会話をしてください。

2 数学



(1) 結果

全ての領域で全国平均を大きく下回っています。特に「図形」や「関数」の領域で 10 ポイント近く下回っています。しかし、無解答率は問題によってばらつきはあるものの、全国平均とあまり変わりません。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「データの活用」の領域の、度数分布表を読み取り、累積度数を求める問題の正答率が全国平均を上回っていました。また、規則性の問題の具体的な計算結果を求める問題や、箱ひげ図（データのばらつきをわかりやすく表現するための統計図）の問題の正答率は、全国平均とほぼ変わらない値でした。

しかしながら、「A 数と式」の領域の規則性を説明する問題や「C 関数」の領域のグラフの利用の仕方を説明する問題では、正答率が全国平均より 10 ポイント近く下回っていました。

今後、問題の正答を求めるだけでなく、答えを求める過程を説明する力をつけていく必要があると考えられます。

(3) 学力向上のための取り組み

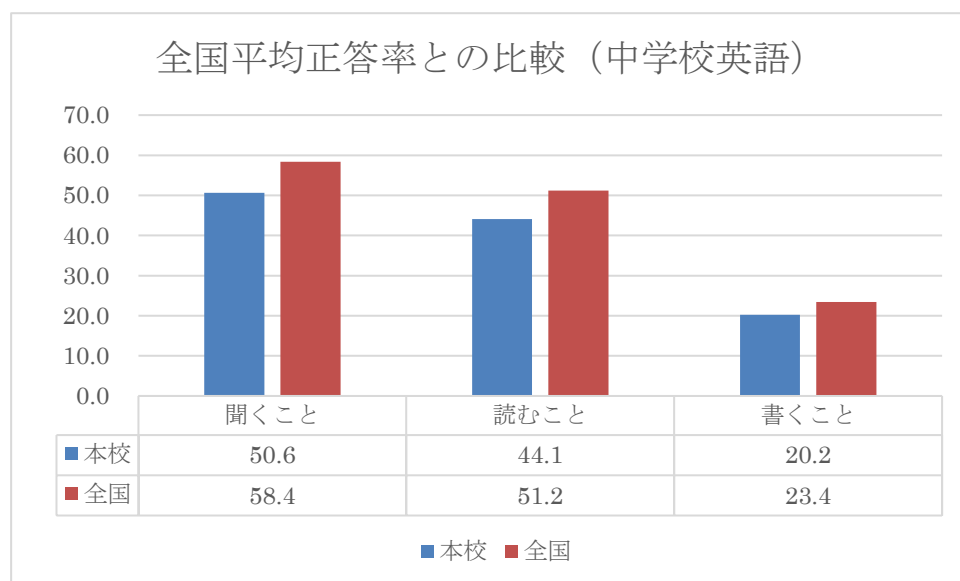
【学校では】

- 三角形の合同の証明や、問題解決の方法の説明など、記述式の問題を多く取り入れ、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、学びあい活動を通して、自分の考えを人に伝えるという場面を多く設定します。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭学習用の課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 点数や順位の結果だけでなく、お子様の授業用ワークブックやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になってください。文字の丁寧さや、誤答の様子など、日々の教科への取り組み状況が窺えます。努力している点や、成果など、良い面に着目して励ましの言葉をお願いします。
- 「習ったことが生活の中で使えて、便利だな、おもしろいな。」と思う経験をさせることで数学に興味をわきます。様々な生活場面で数学を使うようすすめてみてください。

3 英語



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。

「聞くこと」、「読むこと」が特に、対全国比が低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「聞くこと」の領域の情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を7.8ポイント下回っていました。また、「読むこと」の領域の情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を7.1ポイント下回っていました。特に、まとまりのある英文を聞いたり、読んだりすることに課題が見られました。日頃から、日常的な話題や社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしながら、必要な情報を読み取る練習をすることが必要です。

自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ったり読み込んだりするためには、話されること全てを聞き取る、読み取るのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で、解答することが重要です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 学習者用デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようにします。
- 読んだことについて話す活動や、聞いたり読んだりしたことについて書く活動など、複数の領域を統合した言語活動の充実を図ります。

【ご家庭では】

- 授業以外でも英語を使う機会を増やすことが英語力の向上につながります。英語への関心が高まるような励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 英語学習のテレビ・ラジオ放送や英語学習用教材サイト等をご活用ください。（文部科学省のホームページでもたくさん紹介されています。）

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した生徒の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	85.5%	78.6%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	44.5%	34.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	72.0%	54.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	45.5%	37.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	53.5%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	85.0%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	88.5%	80.3%

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムが身についている生徒が多いようです。これからも家庭と学校で協力して、習慣化していければと思います。

自己肯定感や規範意識の項目についても、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。さらに自己肯定感を持てるような取り組みをすすめます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	14.0%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.5%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	20.5%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	17.0%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	18.0%	18.0%
「30分より少ない」	23.0%	9.9%
「全くしない」	16.0%	6.0%

家庭学習については全国平均を大きく下回りました。1時間未満の生徒が6割弱おり、中には全く家庭学習をしていない生徒もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者様や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校教育目標「夢や目標をもち、思いやりの心とチャレンジ精神に満ちあふれた生徒の育成」に向け、学校行事や学級・生徒会活動等で、個に応じた出番・役割を設定し、努力や成果を承認して自己肯定感を高めていきます。
- 自分の進路目標に向かってどう取り組むかを自分で考えさせ、気づかせ、行動できるように助言していきます。

【ご家庭では】

- 会話の時間を増やし、様々な場面で、規範意識(道徳や倫理、法律など社会的なルールを守ろうとする意識)について話をしてください。
- お子様が将来何になりたいか、どのような職業に向いているかなど、機会を捉えて将来の話をして、自分の人生・未来を切り拓いていくのは自分だということを意識させてください。